

関係者限り

令和4年度
「国保連合会保健事業支援・評価委員会」
報告会
(令和4年12月21日開催)
概要報告

令和5年3月17日時点

国民健康保険中央会
保健福祉部保健事業課

**令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会
概要**

1. 日時 : 令和4年12月21日（水） 13時30分から16時45分
2. 研修会形式 : Zoomによるウェビナー形式
3. 主催 : 国民健康保険中央会
4. 対象者 : 国保連合会保健事業支援・評価委員会、国保連合会職員
5. 参加者数 : 保健事業支援・評価委員会代表委員43名、国保連合会52名
6. 都道府県別出席数（率※¹） : 支援・評価委員会43（91%）、連合会46（98%）
7. アンケート回答数（率※²） : 支援・評価委員会40（93%）、連合会46（100%）
8. 日程

13:30	開会 主催者挨拶（5分） 国民健康保険中央会 理事長
13:35	来賓挨拶（5分） 厚生労働省保険局
13:40	国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員長挨拶（5分） 医療法人社団健育会副理事長 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室客員教授 宇都宮 啓 氏
13:45	行政説明（10分） 厚生労働省保険局国民健康保険課
13:55	行政説明（10分） 厚生労働省保険局高齢者医療課
14:05	講演（30分） 「健康日本21からデータヘルス・医療費適正化、一体的実施まで、 新しい動きを踏まえたヘルスサポート事業の方向性について」 ・国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員 女子栄養大学 特任教授 津下 一代 氏
14:35	講演（20分） 「第3期データヘルス計画に向けた支援評価委員会の取組について ～静岡県支援・評価委員会の取組をもとに～」 ・国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員 浜松医科大学医学部医学科健康社会医学講座教授 尾島 俊之 氏
14:55	休 憩（15分）
15:10	中央会からの報告（15分） 「ヘルスサポート事業の全国的な取組状況と今後の動き」 国民健康保険中央会保健事業課
15:25	国保連合会からの報告（15分） 「新潟県国保連合会における国保・後期高齢者ヘルスサポート事業の取組」 新潟県国民健康保険団体連合会保健事業課
15:40	グループワークの進め方の説明（5分）
	グループワーク（60分） テーマ 「各都道府県の取組の現状と課題、その対応について」 ・昨年度の報告会で挙げた課題、今年度の現状とさらなる課題
16:45	閉会

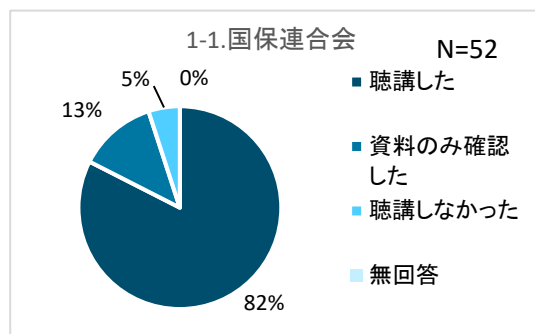
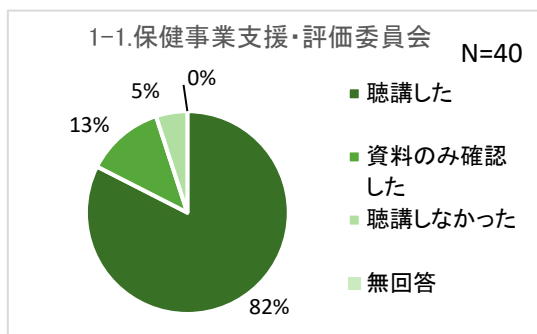
※1：出席した都道府県数／47都道府県

※2：回答した都道府県数／出席した都道府県数

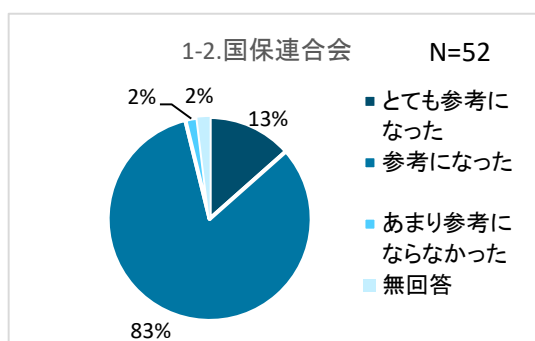
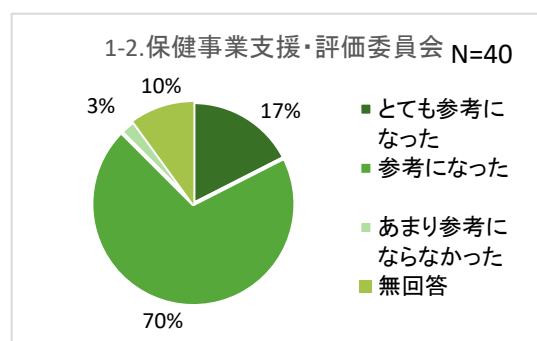
令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」 報告会（アンケート結果）

行政説明『国民健康保険課からの情報提供（国民健康保険における保健事業）』
厚生労働省保険局国民健康保険課

聴講について



内容について



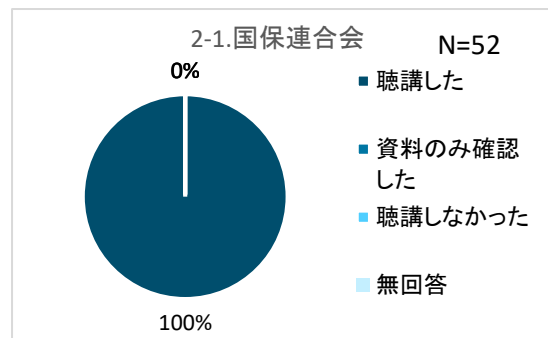
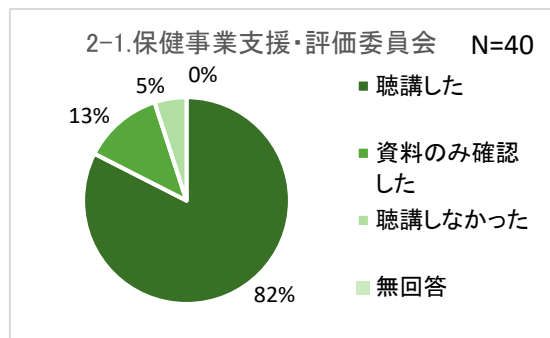
主な意見・感想

属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会	第3期データヘルス計画策定に向けての国の動向を理解できた。
	保険者努力支援制度も、アウトカム、費用対効果重視（特に医療費適正化に向け）を求められ、なかなか厳しい状況であることが理解できた。評価委員会としてもこのような方向性を理解したうえで、各保険者が効果的・効率的な計画策定、事業展開ができるよう支援していく必要性を感じた。
	財務省からの保険者努力支援交付金の総括調査票において、医療費適正化に貢献しているか否かが厳しく指摘されていることや国保ヘルスアップ事業の支援対象等参考になりました。
	国保ヘルスアップ事業の要件が緩和された（「第三者からの助言」が減少）背景がわかった。
	資料に多くの情報があり、特に重要な点に絞って説明していただいても良かったのではないかと思います。
国保連合会	・手引きの改訂に向けて検討されているポイントが理解できた。・データヘルス計画策定手引きの改訂版が検討されており、タイムスケジュールや内容（第3期から国保と後期が分かれて作成されること）が理解できた。
	国民健康保険における保健事業の現状について知ることができた。情報提供していただき良かった。今後も、新しい情報については迅速に把握できるように努めたい。
	データヘルス計画策定の手引きの改訂版の検討状況や令和5年度保険者努力支援制度の変更点等の説明があり参考になった。
	令和5年度ヘルスアップ（事業費連動分）について、県より情報提供があったが内容の再確認ができて良かった。

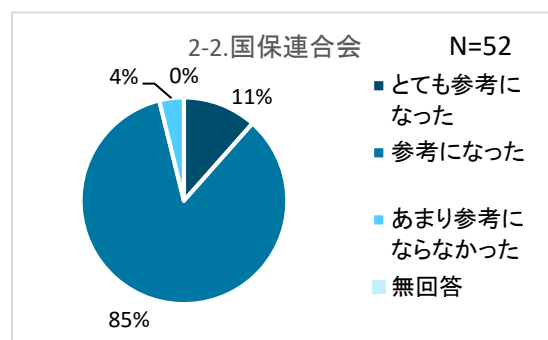
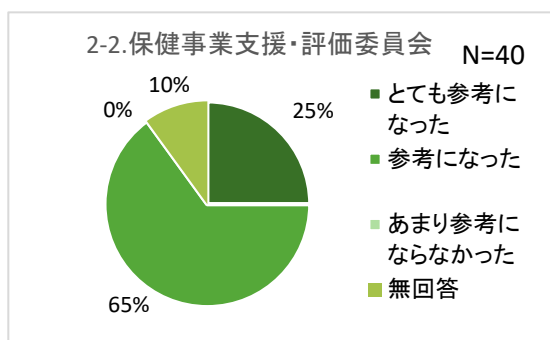
令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

行政説明『高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について』
厚生労働省保険局高齢者医療課

聴講について



内容について



主な意見・感想

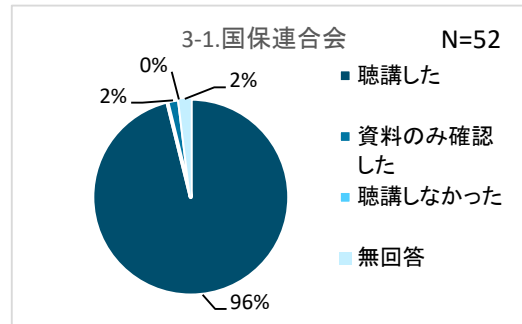
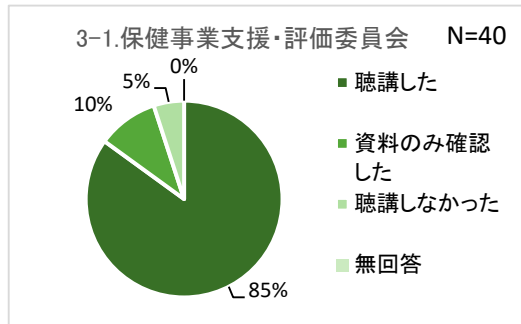
属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会	一体的実施に関するツール等の支援状況、データヘルス計画との連動の重要性等の理解が深まった。
	高齢者の保健事業と介護予防の一体化の現状やKDBシステムの活用、第3期データヘルス計画に向けた評価と目標の設定について理解を深められた。
	高齢者保健事業における「目標設定の考え方」「評価指標の検討」が参考となった。
	現在ある介護予防の取組の中でどのように展開するかを考えるために知見を得ることが出来た。
	一体的実施の推進に向けた国の動きが理解できた。様々な手引きの改定やKDBの活用支援も進められていて参考になる一方で、それらの活用にあたっての保険者間格差もあるように感じた。
国保連合会	高齢者保健事業のデータヘルス計画策定の手引きの検討状況や評価指標に関する情報提供があり参考になった。
	高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について、現状を知り今後の展開についても知ることができた。国保連合会の役割を認識し、今後の課題について取り組みたい。
	資料10-11ページにおいて、広域連合が見るべき視点（確認すべきデータ）と市町村が見るべき視点（指標案）が示されており、立場に応じた評価指標・視点について説明いただき、考え方や広域連合と市町村の関係性等を整理しやすくなりました。
	どれだけ実施しているかより、先進地からみえてきた結果について教示いただきたいです。

令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」 報告会（アンケート結果）

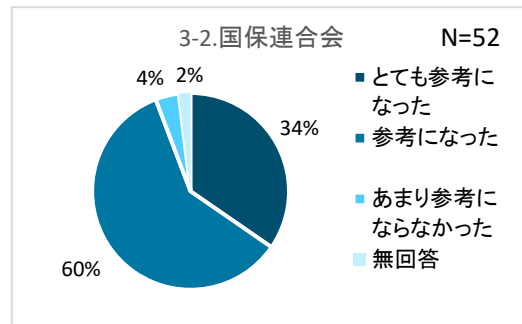
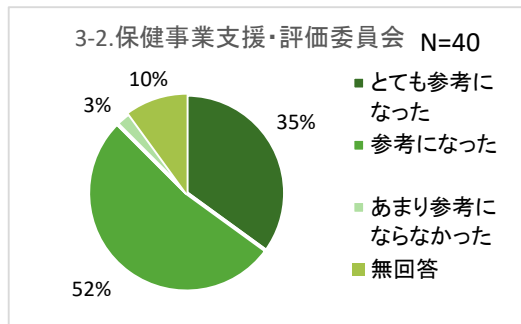
講演『健康日本21からデータヘルス・医療費適正化、一体的実施まで、新しい動きを踏まえたヘルスサポート事業の方向性について』

女子栄養大学 特任教授 津下 一代 氏

聴講について



内容について



主な意見・感想

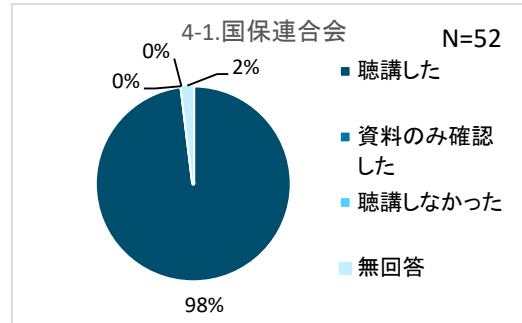
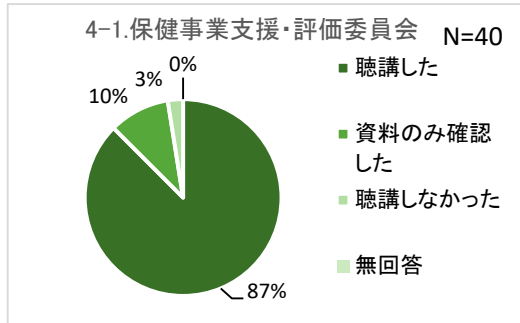
属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会	様々な計画の改定時期が重なっていることから、それぞれの整合性を念頭に置き、一貫性をもった計画策定の重要性について理解できた。
	次期計画の方向性や高齢者の保健事業における評価指標について大変参考になった。高齢者は個別性が高いため、どの部分を標準化して評価すればよいのかを参考にしたいと思う。
	今後の方向性や改定のポイントなどと共にガイドラインや手引の紹介があり参考になりました。
	保健医療にかかる計画が一斉に改定時期を迎える中で、改革のポイントをわかりやすく説明していただけて良かった。評価委員としてこのような全体像を理解したうえで支援に取り組まなければならないと改めて感じるとともに、今後も私たち自身も情報収集をしていかなければならないと感じた。
国保連合会	アウトカムを狙った介入策のポイントについて学ぶことができました。ありがとうございました。
	令和6年度に向けて、10年に一度の一斉改革となること等、全体の状況の流れが理解できた。初期の改定ポイントにも触れられ、全体を理解する上で参考になった。
	糖尿病性腎症重症化予防事業FBR出力ツールや高齢者保健事業の一体的実施支援ツールの概要を学ぶことができてよかった。今後はこれらを活用してどのように保険者支援をしていくかを考えていかなければならないと感じた。
	アウトカム評価がますます重要視されること、その成果をしっかりと「見える化」していくこと、取組が適切に評価できる指標の設定が重要であることを再認識した。

令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

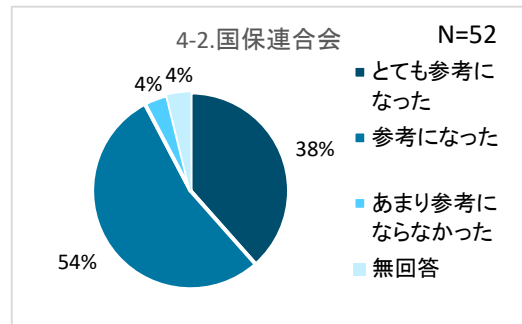
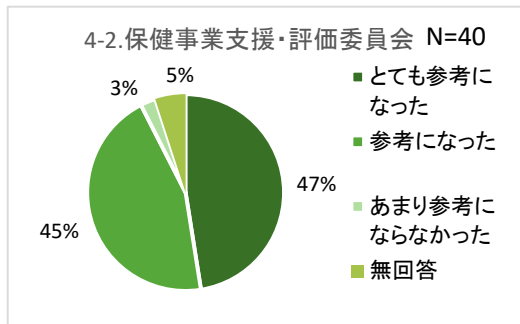
講演『第3期データヘルス計画に向けた支援評価委員会の取組について～静岡県の支援・評価委員会の取り組みをもとに～』

浜松医科大学医学部医学科健康社会医学講座教授 尾島 俊之 氏

聴講について



内容について



主な意見・感想

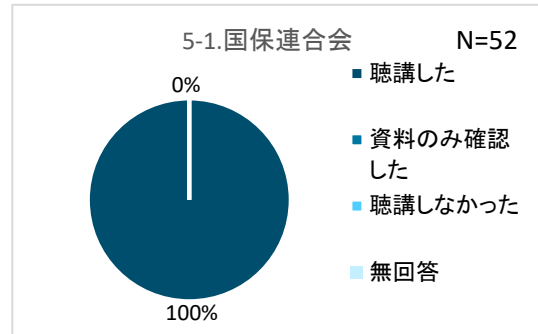
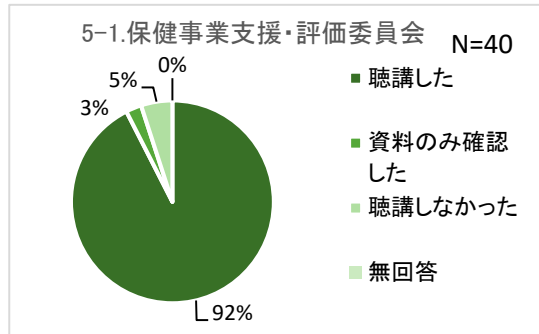
属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会	考え方の標準化や質的情報分析や地域資源の把握の重要性については、これまでの支援の中で感じていたことで共感できた。
	・すべてにおいて、とても分かりやすく、今後の支援に役立てられると感じた。 ・支援評価委員会自体の評価についてもヒントが得られた。
	具体的に保険者へ助言を行う際に「考え方の標準化」をすることが大事であるということはぜひ伝えたいと思う。
	静岡県の取り組みをもとに目的から評価、地域特性や連携強化について具体的な説明がわかりやすく参考になりました。
	本県でも相談の多い評価指標に関して、共通化により各保険者の負担軽減を図る視点を参考にしたい。県にとっては保険者間比較の可能性、保険者にとっては課題検討や改善策の検討に時間を当てられる利点を県と検討していきたい。
	先生の支援評価委員会での実践をもとにした課題の提示や支援の考え方、方向性に関するお話は大変示唆に富んでおり、参考になった。改めて基本の考え方を押さえた助言等ができるようにしていきたいと思った。
	対象者の優先順位の考え方、庁内連携、医師会との連携など、大変参考になった。
	支援・評価委員会の他県の取組を知ることが出来、本県の現在の取組を考える機会となった。

国保連合 会	データヘルス計画における保険者からの問い合わせは、自県と同様であり参考になりました。
	自分が対象とする地域（集団）の人口構成、SMRなどを把握したうえで、データを読み取ることが必要であることを再認識できました。 アウトカムを狙うためには、地域資源等を活用した健康づくりの仕組みづくりや政策を考えることが重要であることを学び、非常に参考になりました。ありがとうございました。
	指標そのものの標準化だけでなく、考え方の標準化も必要で、課題解決には地域独自の成功するための社会資源を把握する必要がある。
	・データヘルス計画はそもそも何のために策定されるのか、原点を確認できた。また、数字だけでなく、基本的な地域診断ができていないと具体性に欠けた計画（絵に描いた餅）になること、静岡県のように共通指標が明示されれば各保険者も評価に悩むことが少なくなることに共感した。
	情報収集し、地域の特性を理解した上で地区診断を行い、優先課題をつけていくこと、計画を立ててからはPDCAサイクルがしっかりと回るようにしていくことが大切である。データを活用して人・集団を良い方向に動かすことがデータヘルス計画の目的であるというところに共感した。
	データヘルス計画の標準化について、枠組みや評価指標だけではなく、考え方の標準化も大切であるとわかった。標準化する中でも、地域特性や地域資源といった、市町の特徴もしっかりと反映させていく必要があると理解できた。
	データヘルス計画の策定・評価において、「評価そのものの標準化」に加えて「考え方の標準化」も必要であることについて参考になりました。
	データヘルス計画に係わらず、地域住民に対し解決すべきことが何かと、その解決方法の考え方について再確認できました。
	NDBの特定健診の年齢調整別のメタボ該当者、予備群について、都道府県別があれば、提供いただきたい。
	保険者から支援・評価委員が何を求められ、どのような対応をしたか具体的な事例の紹介を希望します。

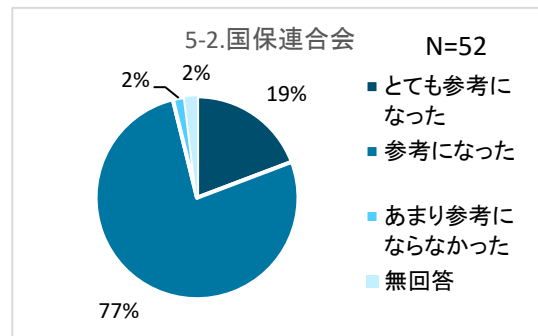
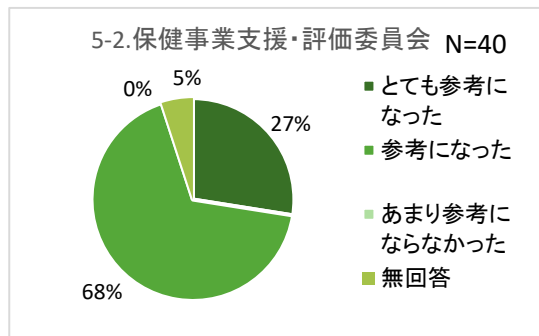
令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」 報告会（アンケート結果）

報告『ヘルスサポート事業の全国的な取組状況と今後の動き』
国民健康保険中央会保健事業課

聴講について



内容について



主な意見・感想

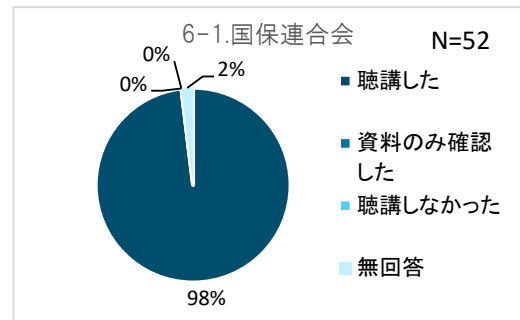
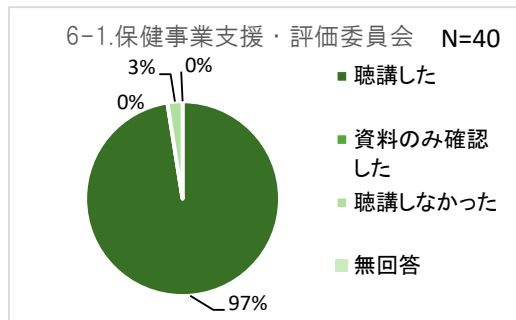
属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会	全国的な取組状況や課題が示されていて参考になった。
	国保中央会として、支援評価委員会が効果的に機能するための様々なサポートを検討していることがわかった。支援評価委員会の活動自体もPDCAを回していく必要性を改めて感じた。
	国保連合会の役割についての理解が深まりました。それゆえ、連合会に求められる役割に比して、連合会の体制強化、スキルアップの支援等がどのようになされているのかという点がとても気になりました。
国保連合会	ヘルスサポート事業に関連するガイドライン・マニュアルとスケジュールが参考になりました。
	各都道府県の連合会の支援率などの現状を知るとともに、ヘルスサポート事業のガイドラインなども把握することができた。また、今後の検討課題についても大変勉強になった。
	今後の動向を知ることが、保険者支援において重要であるので、方向性を確認できた。
	連合会および支援・評価委員会の役割や支援対象も増加・拡大していく中、体制整備や連合会内での人材確保および育成も急務だと感じた。
	ヘルスサポート事業の今後の検討課題の一つとして「財源について」があがっておりますが、補助率の減少への対応について、中央会および他都道府県連合会の考えやご意見をお聞きしたいです。
	中央会の方向性は分かりました。ガイドラインの改訂にあたり、すでに構成案や改訂案までできているようですが、実際にガイドラインを使っていた連合会のニーズがどのように反映されているのかわからなかった。

令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

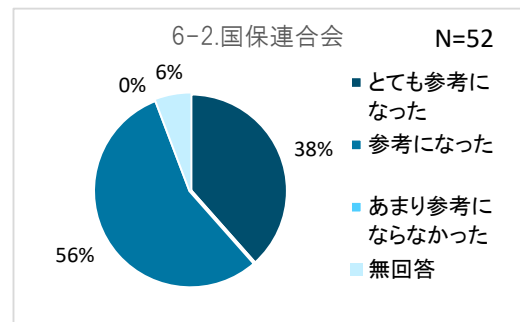
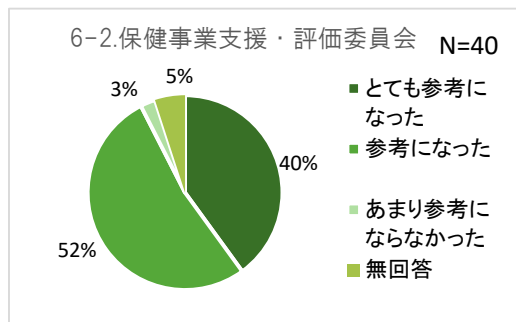
事例発表『新潟県国保連合会における国保・後期高齢者ヘルスサポート事業の取組』

新潟県国民健康保険団体連合会保健事業課

聴講について



内容について



主な意見・感想

属性	意見・感想
保健事業支援・評価委員会	とても戦略的に活動されていると感じ、とても参考になりました。このような取り組みに至る背景とプロセスについて、もう少し伺いたかったです。
	雪害で大変な中、貴重なお話をありがとうございました。支援評価委員会へ保健所の参加も呼びかけている取り組みはとても良いと感じました。医師会との連携を始めとした二次医療圏といった範囲の課題を保健所と共有できるのではないかと思います。
	個別訪問を実施するなど積極的な取組を展開しており、参考にできるものがあるのではないかと思います。
	共通の書式使用や助言集などの活用、Webによる研修会や助言の傍聴など地域に合わせた具体的な支援の工夫を学ぶ機会となった。
	支援評価委員が集合して協議する場をつくっておられるなど、工夫されている点が参考になりました。
国保連合会	県や後期高齢者広域連合などの関係機関と役割を明確にして協働されていることが素晴らしく、非常に参考になりました。また、今後の課題として「保健事業支援・評価委員会」の計画、PDCAを挙げておられましたが、当県でも全く同じことを課題にしています。また、ご意見などをお聞かせいただければと思っております。よろしくお願いします。
	支援・評価委員会や個別訪問等による保険者支援について、体制や実施方法等を知ることができ参考になりました。
	・他連合会の国保・後期高齢者ヘルスサポート事業の取組は、当会での取り組みを見直す機会にもなり、参考になった。 本県でも課題と感じていることの共通点が多かったため、とても参考になった。課題に対し地道に今できることを確実に取り組んでいることがとても勉強になった。今後の取組の参考としたい。

令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

グループワークについて

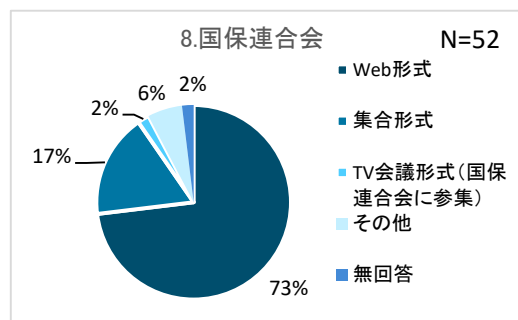
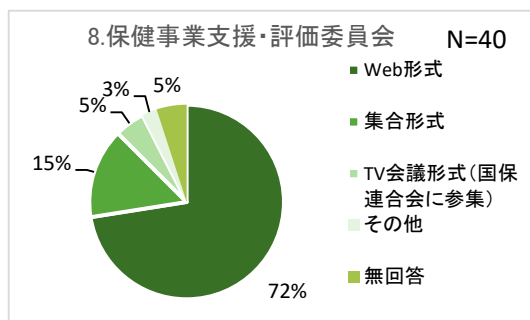
主な意見・感想

カテゴリー	属性	意見・感想
参考になった	保健事業支援・評価委員会	多くの保険者を抱える他の都道府県での苦労や取組の工夫について情報共有できたことは大変有意義だった。
		他の支援・評価委員会の委員の先生方が日々どのようなことを感じながら対応されているのかを具体的に知ることができ大変良かったと思います。
		先生の司会進行により、良い意見交換ができたと思います。他県の取組状況に加え、静岡県取組も伺えて参考になりました。
	国保連合会	支援保険者数の増加に対する支援方法や助言集の作成について、いくつかの県から工夫点を発表いただいたので、これからの保険者支援の参考になりました。このようなグループワークは他県の取組状況を知る貴重な機会だと思います。
		・自県で実施していたことが、他県では課題となっていました。発言することにより、報告会后に直接電話連絡があり連携することで情報交換も出来ました。
		保険者数の多い都道府県を集めたグループ分けになっており、支援保険者数の増加等共通する課題について、各委員会で工夫していることや、苦労していることなどを実際に聞くことができ参考になりました。
		他県ではどのような保健事業支援・評価委員会の体制をとっているか、委員の状況などはどのようにされているか、実際の状況を知ることができ、大変参考になった。 あのような場面で話を聞いたり、発言できる機会は貴重であるため、積極的に今後も参加していきたいと思う。
開催形態について	国保連合会	時間が短かったこともありますが、リモートで議論を深めるのは難しいと感じました。
		Zoomという環境はやはり限界があるため、委員の皆様は初めてお会いする方もいるので、活発な意見交換というのは多少難しい面があると感じた。
時間について	保健事業支援・評価委員会	・他県の実施状況などは参考になったが、各県から予め提出していた他県に質問したいことや意見交換したいことを行う時間が足りなかったことは残念であった。 発表時間が限られていたため、内容を限定した。他の発表を聞いて、補足したいと考えたが、補足できなかった点も多かった。 講演等の数を限定し、グループワークの時間をもっと取ってほしかった。（少なくともあと20分程度）
	国保連合会	連合会間の情報交換・意見交換会にはなったものの、支援・評価委員会委員のご意見等をお伺いする時間がなかったため、委員間の意見交換会の場とはならなかったと感じています。今後の委員会の在り方や目指す方向等について、もっと他県委員の皆様のご意見等をお伺いしたかったです。
参考にならなかった	保健事業支援・評価委員会	率直に言って、各都道府県の実情が大きく異なるため、あまり参考にならない。
	国保連合会	取組報告を聴くことで、他県の状況は分かったが、支援保険者数も違い、評価委員の構成も違う等、状況が全く違うため、それをどの程度本県の委員会に生かせるかは、現段階ではわからない。

事前ワークシートについて	保健事業支援・評価委員会	事前ワークシートの提出が求められていたため、プレゼンテーションが行いやすかったです。また、他府県の活動状況、問題点などを拝聴できたことは大きな収穫でした。
	国保連合会	事前ワークシートがあったので、スムーズに意見交換ができたと思う。他県の情報を知ることができ、参考になる部分が多かった。
		事前ワークシートの内容は、事務局が検討、実施している“運営”に関するものが多く、代表委員の先生にご説明いただく必要性があるのか疑問に思いました。
		事前ワークシートについて、47都道府県毎のデータをそのまま提供するのではなく、最低限グループごとにまとめて提供すべきである。
内容について	保健事業支援・評価委員会	他都道府県の連合会の取り組みについて、方法論の概要を知ることができましたが、本質的な意見交換までには至らなかった点は残念でした。現状報告もいいですが、何かテーマを設けてディスカッションという機会があってもよいのではと感じます。
	国保連合会	・「他県に質問・意見交換したいこと」の内容がそれぞれで多かったので、テーマがぶれてしまったように思う。そのため、フリーディスカッションの時間内では、十分に議論ができなかった。
		事前の課題や対応等のアンケートに加え、委員会の開催概要がわかるデータも収集いただき、その内容も踏まえて意見交換、質疑できると更に良かったと思います。具体的に知りたい内容としては、支援メニュー（計画支援、個別事業計画・評価支援、一体的実施支援など）、支援保険者数、委員会開催回数、個別支援かグループ支援か、開催形態（対面かWebか）など。
		時間が限られているので、事前ワークシートに記入されていることを一から発言していただくのではなく、項目3の「他県に質問、意見交換したいこと」から始めた方が効率よく進行するのではないかと感じた。
		委員の先生方に集まっていただき意見交換するので、運営に関することではなく、支援や助言している中で気づいたことや工夫など「委員ならではの」のテーマでざっくばらんに話していただくと、事務局支援のヒントも得られる機会になったのではないかと思います。
グループの分け方について	保健事業支援・評価委員会	グループ分けが良かったためか、参考になる取り組みが聞けた。
	国保連合会	集合形式で行われていた時のように、委員の先生方のグループと連合会事務局グループと分けていただいた方がよいのではないかと思います。
		ここ2年連続して連合会規模の近いところでグループ分けがされていると思うのですが、来年度は違う連合会との意見交換がしてみたいです。
		グループワークの班構成を、支援保険者数等も参考に考えていただければ、より参考になるのではないかと感じた。
		昨年度と同じグループ編成で、同じテーマで話しても発展性がないと感じました。グループワークの時間では、何がどうなればよいのか等、到達目標の説明がもう少し欲しかったです。単なる進捗状況の報告であれば、資料の提示でもよいのではないかと、進め方の工夫なども必要だと感じました。
感想	保健事業支援・評価委員会	これまでの委員会取り組みの是非について確認や今後の取り組みに向けて、情報交換の場となりました。
		各県の取組や現状等が聴くことができてよかった。評価委員としての立場と責任をさらに認識した。
		他県との意見交換ができたので、短い時間ではあったが、本県の取組を考える機会となった。願わくば、意見交換しなかった都道府県の状況等も知る機会があればありがたいと感じた。
	国保連合会	保険者数が多いことに対し、委員を増員したり、支援コースを設けたりとそれぞれの連合会で工夫して取り組んでいたことが伺えた。来年度は、データヘルス計画の評価と策定、ヘルスアップ事業、一体的実施事業の支援方法や支援形態、保険者のモチベーション向上など意見は聞くことができたが、連合会ごとに保険者の状況や体制も異なるので、今後も情報共有しながら取り組んでいきたい。

令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

開催形態の希望について



主な意見・感想

属性	開催形態	意見・感想
保健事業支援・評価委員会	Web形式	遠距離移動がないため、出席のための日程を調整しやすい。
		できるだけ各委員が所属にいながら参加できるような形が望ましいと感じるため。
		開催時期によっては移動時間にかなりの時間を取られること、オンライン開催の場合は、様々な資料を検索しつつ聴講することが可能である事。
		出席者が全国に及ぶため、出席者が距離や時間の制限が少なく多くの方が出席ができる形式と考えます。
		遠方かつ冬場の時期の開催であり、移動を伴わずに参加できることは非常に有効。またオンラインだと複数のメンバーで参加することができるのでありがたい。
		コロナ禍であること、講義やグループワーク等においても研修会の成果が十分得られると考えたためです。
		感染症の流行状況や天候に左右されず、時間等の都合もつけやすいため参加しやすい。
		新しい情報を得るために、委員ができるだけ参加することが重要と感じましたので、参加しやすい環境を望みます。
	集合形式	時期にもよるが、参加しやすい。ただ、ネット環境が不十分な聴取者があり、うまくいかない部分も見られた。
		・効果的な会議、グループワークとするには集合形式が効果的と考える。
	TV会議形式(国保連合会に参集)	直接お会いしたほうが、他県の委員の先生と交流も深まり、興味のある事項は直接確認することが可能となるため。
		休憩時間や隙間時間に些細な確認事項や議論などが国保連合会と出来る方が良いため
	その他	・参加のし易さは各自の職場でWEB参加だと思う。しかし、連合会に参集していれば、研修会の終了後に、その場で意見交換できるというメリットが考えられる。
		(集合形式をライブ配信するハイブリッド形式) 集合形式ならではのメリットはありますが、参加可能な人数に限りが生じます。Web形式にもメリットは多々ありますので、双方を組み合わせた形式も検討する意義があると思います。

国保連合 会	Web形式	委員長のみでなく他委員にも聴講いただける。また日程調整がしやすい。
		新型コロナウイルス感染症の状況等を鑑みてWeb形式が妥当ではないかと考えたため。
		Web形式でも、各県の先生方や連合会の取組み等について、意見を聞くことができ、より多くの先生方が参加しやすい形態であると感じました。
		意見交換は集合形式が最良と思っているが、委員の先生方の都合やより多くの方に参加していただくためには、Web形式がベストだと思った。
		感染予防対策や交通の諸事情、時間的な面を考えたときにオンラインによるWeb開催は負担が大きく減るメリットがあるため。 しかし、デメリットとしてグループワークなどが一方通行になってしまいやすく発言しにくい。
	集合形式	Webだとグループワーク等のディスカッションが深まりにくいと感じることや、同グループになった都道府県の方としか話すことができないため、より多く情報交換等を行うために集合形式での実施を希望する。
		集合することでより多くの方との会話をすることができ、現場での活動に繋がるタイムリーな情報を、具体的に得ることが出来るので、ぜひ集合研修を希望します。また、グループワークを行うことで、他県の人と交流でき、関係構築につながると考えます。
	その他	Web形式を基本とし、数年に1回は集合形式。Web形式で複数の支援・評価委員の先生に聴講いただけるのはよいですが、グループワークは集合したほうが協議が活発になると思います。
		参集とWebの併用（新型コロナウイルス感染症の流行状況にもよる）。事業の運営方法について、他連合会（事務局）と情報交換がしたい。一方で、Webは多くの委員や連合会職員が傍聴できるメリットもあるので、併用できればと思う。

令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

来年度開催にあたり、取り上げてほしいテーマについて

主な意見・感想

カテゴリー	属性	意見・感想
政策の動向・基本的な方向性について	保健事業支援・評価委員会	報告会は、政策の動向、基本的な考え方・今後の方向性等を委員が直接的に確認する重要な機会です。引き続き、同様な構成での開催を希望します。
	国保連合会	個々の委員が、評価委員会の活動に関わる国の動きも含めた様々な情報を総合的に得る機会はないため、ある一定のテーマというより、今回のような情報提供やその時のトピックを取り上げた内容にしたい。
支援・評価委員会について	保健事業支援・評価委員会	具体的な支援方法等について。
	国保連合会	保健事業支援・評価委員会を受けて変わることできた、という保険者側の事例を伺いたい。 ・保健事業支援・評価委員会の助言のまとめの活用、他市町への開示や助言集作成の状況について、どのような取り組みをされているか。
委員会の評価について	保健事業支援・評価委員会	委員会の評価について、テーマを絞ってもよいのではと感じた。
	国保連合会	委員会・事務局の評価について具体的な事例があれば知りたい 委員会のPDCAやアウトカム指標の進捗管理等が見える化されている事例がありましたら、ご紹介いただきたいです。
支援希望者数の変化への対応について	保健事業支援・評価委員会	ヘルスアップの要件として支援評価委員会の活用が必須ではなくなることで、支援を希望する保険者数が増える可能性が考えられ、その変化に伴って支援状況についても変化したかなど情報共有できるとよいと思う。
	国保連合会	・ヘルスアップ申請条件が変更になり、委員会利用状況や委員会開催方法の変更等について、他府県の状況を伺いたい。
一体化実施事業について	保健事業支援・評価委員会	高齢者の保健事業と介護事業との一体化について、既存の他の事業との調整や連携の実際について
	国保連合会	一体的実施事業の目標、評価、エンドポイント等について 保健予防と介護予防の一体的な実施
連携について	保健事業支援・評価委員会	保健所との具体的な連携について。
	国保連合会	データヘルスやヘルスアップ事業、一体的実施事業と複数を並走して支援することになるため、各連合会がどのように支援しているのか、関係機関との連携について、話を聴く場があればと思います。
手引き等について	保健事業支援・評価委員会	・第3期データヘルス計画手引き改訂版のポイント
	国保連合会	・ヘルスサポート事業ガイドラインの解説

データヘルス計画について	国保連合会	データヘルス計画の評価（標準化）及び、新計画の課題等について
		データヘルス計画の標準化や作成支援の取組状況
		第3期データヘルス計画策定支援の実施状況を情報交換したい。
		・第3期データヘルス計画に向けての取り組み、第2期の評価について ・データヘルス計画標準化に向けての評価指標の捉え方について
他計画との整合性について	国保連合会	・保険者庁内の様々な計画の整合性が取れている事例やその組み立てについて ・国の政策動向や本県の「医療費適正化計画」「医療計画」「介護保険事業計画」「健康増進計画」と保険者が定める計画（特定健診等実施計画、データヘルス計画等）との整合性が取れている事例やその組み立てについて
グループワークについて	保健事業支援・評価委員会	今回のグループワークは、意見交換の場として具体的な課題に対して意見交換する場となっており、有意義であったと考えます。今回のようなグループワークで意見交換の場をお願いいたします。
		委員間、連合会職員間の意見交換の場の設定をお願いします。
人材育成について	国保連合会	保険者の保健事業を支援するために、国保連合会内で人材育成に取り組まれている事例がありましたら紹介していただきたい。（ジョブローテーションに関することも含む）
		連合会の保健事業の主であるヘルスサポート事業をすすめる担当者の人材育成は、各県どのように進めているのか等の意見交換ができる場があると、各県の取り組みの参考&刺激になるのではないかと考えます。特に、初めて従事した事務職や専門職が、他県の担当者との意見交換をすることで、ヘルスサポート事業について、どんなことをどのように考えたらよいかなどのイメージ等が付きやすくなるし、周りに相談をしやすくなるのではないかと考えます。
その他	保健事業支援・評価委員会	個別保健事業の評価には、CDCにあった CDC Approach to Evaluationなどを参考にしようと考えていますが、個別保健事業企画支援にはLee, KotlerのSocial Marketingを参考にしようとしています。よい日本語訳がなく、行動変容を目標とするsocial marketingと保健事業とは若干ずれがあると思います。これまでのガイドラインや手引きにはそれを補うものがどこにあるのかわかりません。参考資料としてどんなものがあるでしょうか。

令和4年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」報告会（アンケート結果）

その他の意見・感想について

主な意見・感想

カテゴリー	属性	意見・感想
参考になった	保健事業支援・評価委員会	9年目になる事業の経過がよくわかった。これからの高齢化社会に備える国の方針にそって行くのは難しいが、高齢者にこの仕組みの変化について知らせる広報活動が必要であると思う。他職種との連携を急がなくてはいけないと思った。
	国保連合会	研修会の準備、お疲れ様でした。 これだけの規模で開催するのは、関係各所との調整等困難だと思いますが、参考になる事が多く参加して良かったと思いました。
内容について	保健事業支援・評価委員会	アンケートを改めて記入していると報告で聞いたり見たりしたものより、事例報告やグループワークの方がよく記憶に残っていた。WEBではあったが直接参加したという感覚のためだと思う。事例報告やグループワークを今後も継続してもらいたい。 どの市町村も受診率の向上に向け、事業を展開しているところであるが、支援・評価委員会でどのような助言を行っているか、また診療情報提供をうまく活用し、受診率を向上させている市町村がもしあれば、実際にどのように医療機関と連携をとっているのか等の取組をご紹介いただけるとありがたい
	国保連合会	個人的には、事務局の情報交換と委員の情報交換を別に設けていただけると、運営等のことも聞けて参考になると思います。
		・保険者支援の評価についての考え方、方法等、学べる機会があればよいと思う。
		保健事業支援・評価委員会開催方法や開催回数等について、他府県の状況を把握されていれば、教えていただきたい。また、中央会として委員会実施方法等の素案があれば教えていただきたい。 国庫補助の動向や、補助内容等について、計画・予算を立てる時期に合わせ、もう少し詳しく説明していただけるとありがたいです。（年度当初の担当者会議の中で、国庫補助をはじめ財源確保に関する考え方等、情報交換できる場の提供、もしくは国保中央会や国からの説明をいただけるととても助かります。）
時間について	保健事業支援・評価委員会	web実施であればもう少し時間を長くしても良いかと考えます。意見交換回答も一時間では少なく感じます。
質疑応答について	国保連合会	・質疑応答への対応について、講義時間に余裕がない場合は、事前に質問を受け付ける等の対応をしていただけるとより研修内容を深めることができるので、ぜひご検討をお願いしたい。
関係機関との連携について	国保連合会	・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業にて、地区医師会との連携がうまくいかないため事業実施が困難という相談があります。（重症化予防事業の実施について理解が得られない） 令和6年度に全市町村で事業実施という国の目標があるなか、事業の必要性を理解してもらうため、地域の医師向けにガイドラインを作成していただけたらと思います。

ヘルスサポート事業報告書について	国保連合会	・毎年、報告書の提出を行っており、そのとりまとめはいただいているが、中央会として、それをどのように活用しているのかが見えない。例えば、実施方法と、保険者の満足度は報告内容から見えてくるものも記載していただけると参考となると思う。
		事業報告書として、毎年膨大な量の報告をしますが、委員会の報告会等での活用が少ないように感じます。事業のPDCAを回すためにも、報告書の結果について丁寧な分析をお願いいたします。
挨拶について	国保連合会	主催者挨拶で、委員の皆様にも感謝や経緯を述べていただいているため、挨拶を書面でもいただけると、出席できなかった委員の皆様にお送りし、伝えることができる。モチベーションの上昇に繋がると思う。
KDBについて	保健事業支援・評価委員会	KDBシステムを現在より活用するためには、機械的あるいは定型的な作業、また、ほぼ確立された部分については、広域的に標準化した方が良いのでは。RPAの導入等も考える必要があると感じている。
開催通知について	国保連合会	業務の関係で難しいかもしれないが、できれば開催通知をもう少し早めに送付いただきたい。 本会で代表委員に依頼する際には研修会の内容やグループワークのテーマ等詳細を合わせてお知らせしたいため。
		この報告会は連合会職員だけの参加ではないので、お忙しいとは思いますが、開催通知は早めをお願いしたい。 特に、事前ワークシートのような課題があり、委員の先生にご発表いただくのであれば、余裕を持った日程で開催通知を送付してほしい。
		・通知、資料等の送付時期について、委員の出欠調整（代表委員の調整を含む）や資料の確認期間が無いため、早めに送付いただきたい。
		開催通知について、正式な通知は報告会当日の2週間前に送付されたため、グループワークに参加してもらう支援評価委員の先生を調整するのに苦労しました。そのため開催通知は1か月くらい前に出していただけるとありがたいです。
資料について	保健事業支援・評価委員会	講演や報告の文字が多すぎると、資料が見えづらい。（特に行政サイドの資料は内容が多く、説明部分が分かりづらい）また、資料の枚数が多く、時間も限られているので、資料を限定してほしい。
	国保連合会	・差し替えや修正のあった資料については、どこが変更となったのか、こちらで確認が必要だったので、記載いただけると助かります。
		資料の送付が直前（前日）等で、委員の先生方に共有するのが時間的にタイトすぎた。またデータ容量も大きいため、分割し何度もメールにて委員に送付しなければならず、事務局の負担、委員へも手間をかけてしまうため、次年度は資料の提供方法について検討いただきたい。
感想	国保連合会	全国の事前ワークシートを47ファイルを送付いただきましたが、グループごとに1枚のシートにまとめてくださるとよいと思います。
		公衆衛生的な捉え方だけでは、本来目的としている住民の健康課題の解決に届かない。県（集団）・地域分析で見えてきた課題を本当に解決していくためには継続した年数がかかる。優先順位もあっているか。決して簡単なことではないので、住民へのアプローチを基本としていくスタンス、専門的な委員からの助言、自県の中で問いながらやっていこうと思います。 ありがとうございました。
		・同グループ他県の事前課題ワークシートの中で、前回の報告会で「委員の中に専門医が不在」という課題があり、今年度は専門医を委員として追加されていた。委員に関する市町村のニーズは専門医や地域の先生の助言であるのに対して、委員の構成が大学の公衆衛生分野・保健所・看護大学系の先生方だけとなっていたことに関してアクションを起こしたことが素晴らしいと感じた。